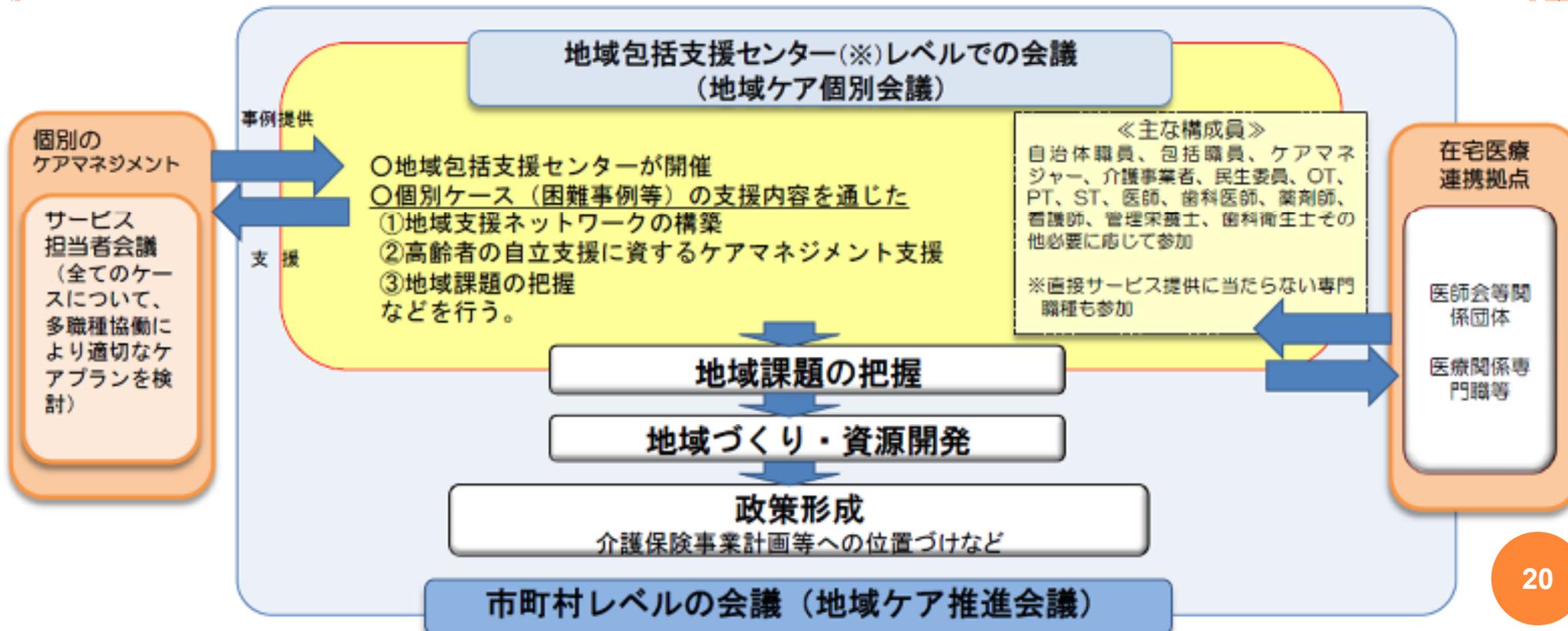


## Ⅱ 地域ケア会議

---

# 地域ケア会議の推進

- 地域ケア会議は、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく、地域包括ケアシステムの実現に向けた手法。
- 地域ケア会議については、地域包括ケアシステムの実現のための有効なツールであり、更に取り組を進めることが必要。
- 具体的には、個別事例の検討を通じて、多職種協働によるケアマネジメント支援を行うとともに、地域のネットワーク構築につなげるなど、実効性あるものとして定着・普及させる。
- このため、これまで通知に位置づけられていた地域ケア会議について、介護保険法で制度的に位置づける。



# ミクロとマクロをつなぐツールとしての地域ケア会議

マクロ

## 第6期介護保険事業計画

(ニーズに応じたサービスと供給量の確保・基盤整備)



地域診断

### 量的なニーズ把握

- ・圏域ニーズ調査・給付分析
- ・国勢調査・住民意識調査
- ・社会資源調査、国民栄養調査 等

### 質的なニーズ把握

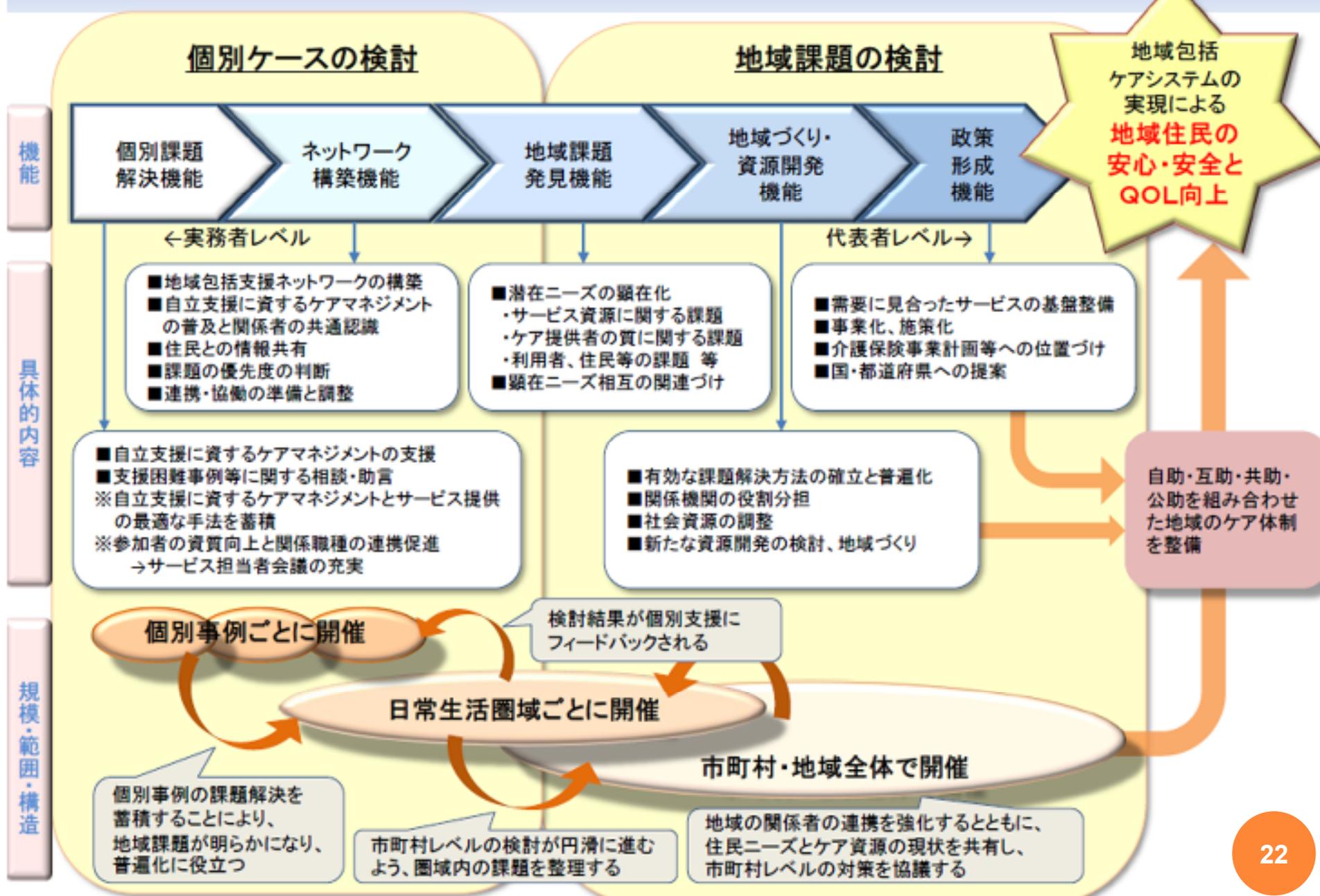
- ・地域ケア会議の活用
- ・事例検討、検証
- ・住民や関係者の声・要望 等

ミクロ

## 個別のケアマネジメント

(介護サービス・医療との連携・インフォーマルサービスの調整・家族調整 等)

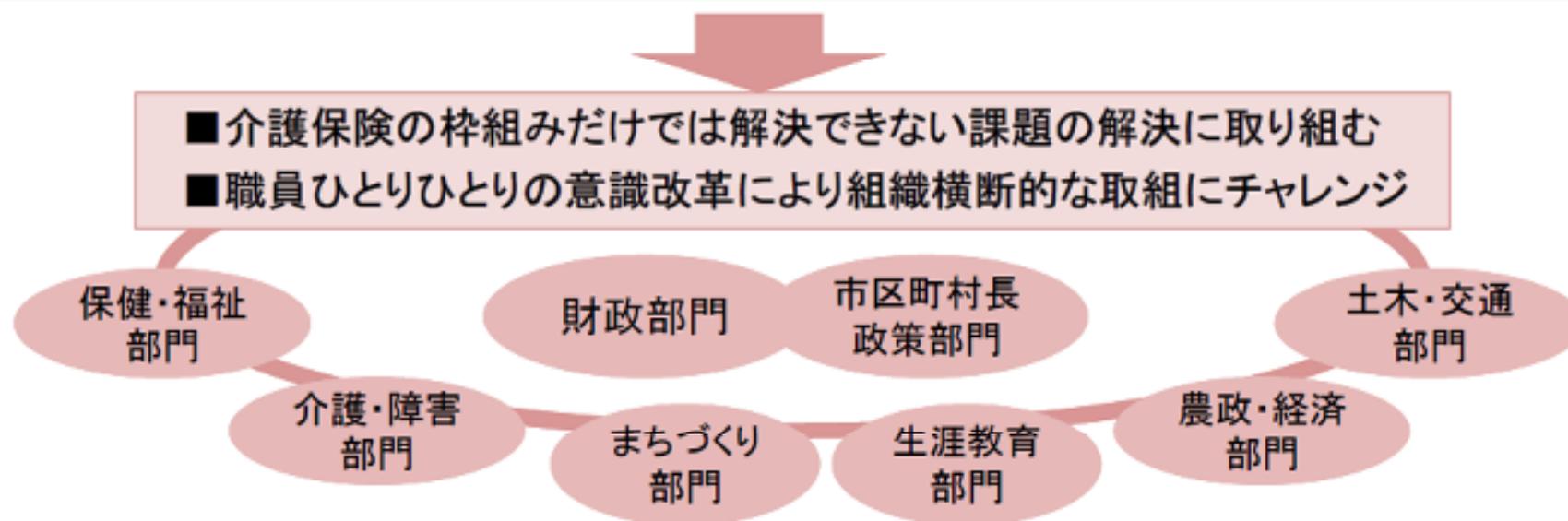
# 「地域ケア会議」の5つの機能



※地域ケア会議の参加者や規模は、検討内容によって異なる。

# 地域ケア会議の運営において市町村に求められること

- わが町の地域ケア会議の運営方針を明確にする
- 地域包括支援センターやその他の機関等からあげられる地域課題を、一旦引き取る担当者を明確にする
- 地域課題解決のための検討の場(地域ケア推進会議)を持つ
- 関係部局、関係機関との調整により、個人支援の充実と地域の基盤整備をめざす



- 事業化・施策化は、ニーズと解決策の根拠を積み上げ、タイミングを逃さず進める
- 緊急性、ニーズ量、実行可能性、効果見込み等を検討して、地域の社会資源を活用しながら基盤整備を行う

**行政職員のチームワークとリレーが大切**

# 地域ケア会議を運営する上で求められるコーディネート機能

○ 地域包括支援センターにおいては、個別ケースの検討を始点として、地域課題の抽出、地域課題の提出までの一連の流れを円滑に進めるコーディネート機能が求められる。

